

平成22年度

地方独立行政法人北海道立総合研究機構の  
業務実績に関する評価結果

平成23年8月

北海道地方独立行政法人評価委員会

## □ 評価にあたっての基本的な考え方

北海道地方独立行政法人評価委員会試験研究部会は、地方独立行政法人法第28条の規定により、北海道立総合研究機構の平成22年度の業務実績に関する評価を実施した。

なお、評価にあたっては、法人の基本理念の具現化を自主的・積極的な取り組みを評価し、法人の業務運営等の質的向上に資することに配慮しながら、中期目標の達成に向けた法人の当該事業年度における中期計画の実施状況を調査及び分析し、業務実績の全体について総合的に評価を行った。

評価委員会の業務実績に関する評価については、北海道地方独立行政法人評価委員会条例第6条第6項及び北海道地方独立行政法人評価委員会運営要綱第2条第2項の規定により、部会の議決をもって委員会の議決とした。

なお、当部会が具体的に評価を行うに当たっては、「北海道地方独立行政法人評価基本方針」及び「地方独立行政法人北海道立総合研究機構年度評価実施要領」に基づき、次の考え方により評価を行った。

### ○ 評価の方法

評価は、「項目別評価」と「全体評価」により実施した。

「項目別評価」は、法人が作成した業務実績報告書を踏まえ、ヒアリング等を通じて、年度計画の項目ごとに業務の実施状況の確認や法人からの自己点検・評価の妥当性を検証し、総合的に判断の上、評価を行った。

「全体評価」は、項目別評価の結果を踏まえた上で、法人の業務実績全体について、記述式により評価を行った。

### ○ 評価の基準

法人が行う4段階（S～C）の自己点検・評価の結果を踏まえ、年度計画の大項目、中項目毎に5段階（V～I）で評価を行った。

#### 【法人が行う自己点検・評価基準】

- S：上回って実施している
- A：十分に実施している
- B：十分に実施していない
- C：実施していない

#### 【評価委員会が行う項目別評価基準】

- V：特筆すべき進捗状況にある
- IV：順調に進んでいる（すべてS～A）
- III：おおむね順調に進んでいる（S～Aの割合がおおむね9割以上）
- II：やや遅れている（S～Aの割合がおおむね9割未満）
- I：重大な改善事項がある

## □ 北海道地方独立行政法人評価委員会・試験研究部会委員名簿

氏名	役職等	摘要
安達 陽子	社団法人中小企業診断協会北海道支部常任理事	
石橋 憲一	国立大学法人帯広畜産大学名誉教授	副委員長・部会長
北野 邦尋	独立行政法人産業技術総合研究所北海道センター所長	
籾本 智之	国立大学法人小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授	
細川 修	一般社団法人北海道中小企業家同友会専務理事	

※五十音順

# 目 次

<b>1 全体評価</b>	1 P
(1) 総括	
(2) 業務の実施状況	
<b>2 項目別評価</b>	
<b>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</b>	2 P
1 研究の戦略的な展開と成果の普及	
2 総合的な技術支援と社会への貢献	
3 連携の推進	
4 広報機能の強化	
<b>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</b>	7 P
1 組織運営・体制の改善	
2 業務の適切な見直し	
3 人事の改善	
<b>第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置</b>	10 P
1 財務の基本的事項	
2 外部資金その他の自己収入の確保	
3 経費の効率的な執行	
4 資産の管理	
<b>第4 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</b>	12 P
1 施設及び設備の整備及び活用	
2 法令の遵守	
3 安全管理	
4 情報セキュリティ管理	
5 情報の共有化の推進	
6 情報公開	
7 環境に配慮した業務運営	
<b>3 項目別評価（総括表）</b>	15 P

# 1 全体評価

## (1) 総括

### ～北海道立総合研究機構 基本理念～

道民生活の向上及び道内産業の振興に貢献する機関として、未来に向けて夢のある北海道づくりに取り組みます。

#### 【使命】

わたしたちは、北海道の豊かな自然と地域の特色を生かした研究や技術支援などを通して、道民の豊かな暮らしづくりや自然環境の保全に貢献します。

#### 【目指す姿】

わたしたちは、世界にはばたく北海道の実現に向け、幅広い産業分野にまたがる試験研究機関としての総合力を発揮し、地域への着実な成果の還元により、道民から信頼され、期待される機関を目指します。

#### 【行動指針】

わたしたちは、研究者倫理や法令を遵守し、道民本位の視点とたゆまぬ向上心を持って、新たな知見と技術の創出に努めるとともに、公平かつ公正なサービスを提供します。

地方独立行政法人北海道立総合研究機構は、幅広い研究分野を有する試験研究機関として北海道の総力を結集した試験研究や技術支援等を進め、自然環境の保全や道民の豊かな暮らしづくり、道内産業の振興に貢献することを目的に、平成22年4月に22の道立試験研究機関を統合して発足した。

平成22年度は、職員が一丸となって、積極的に研究開発を進めるとともに、産学官をつなぐ連携拠点としての役割を果たし、北海道の試験研究機関として総合力を発揮することにより、上記法人の基本理念の実現を目指した次のような取組みが行われた。

- ・ 研究の戦略的な展開と成果の普及に関する取組みについては、道の重要な施策等に関わる分野横断的な研究である戦略研究（3課題）や、実用化・事業化を目指す重点研究（31課題）について取り組んだほか、経常研究や一般共同研究、受託研究等を推進するとともに、研究成果発表会などの開催等により、成果の普及が図られた。
- ・ 総合的な技術支援と社会への貢献の分野に関する取組みについては、技術相談の充実強化を図るため、総合相談窓口を法人本部に設置し、各種相談に一元的に対応できる体制を整備したほか、各試験研究機関においては、工業製品や食品加工をはじめ、各分野で技術相談や技術指導等を行った。
- ・ 連携の推進に関する取組みについては、企業や大学、研究機関等と連携協定を締結（11件）し、広範な事業を伴う組織間の連携の基盤を整備するとともに、協定に基づく各種事業を平成23年度に実施できるよう取組みを進め、また、外部機関の人材6名を連携コーディネーターとして委嘱し、研究・技術支援・普及事業の推進等を行うなど、効果的な連携が図られた。
- ・ 広報機能の強化に関する取組みについては、刊行物やホームページ等による研究成果の公表を積極的に行ったほか、市民向けセミナー等を新たに開催するなど積極的な広報活動を展開した。
- ・ その他の取組みとしては、業務運営について、研究職員採用試験を実施し、平成23年1月1日付け及び4月1日付けで計15名を採用したほか、研修など人材の育成を図った。また、財務内容を分かりやすく記載した「決算の概要」を作成し、財務諸表とあわせて公表することで、財務内容の透明性の確保に努めるとともに、法人本部への事務集約や一括契約など、事務改善、経費の効率的執行に努めた。

## (2) 業務の実施状況

法人が作成した平成22年度業務実績報告書の自己点検・評価を確認したところ、全122項目のうちA評価（年度計画を十分に実施：所期の成果が得られた）以上となった項目は、111項目（91.0%）となっており、S及びAの割合がおおむね9割以上の項目別評価基準に該当する。

総合的に勘案すると、おおむね順調に進んでいるものと認められる。

## 2 項目別評価

### 第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

第1の分野は、年度計画の項目数の約8割を占めている分野である。  
全97項目について評価を行った結果、A評価89項目（研究推進項目46項目を含む）（91.8%）、B評価8項目（8.2%）となっている。  
A評価以上の項目が9割以上（91.8%）であり、全体としては、おおむね順調に進んでいる。

### 1 研究の戦略的な展開と成果の普及

評価 Ⅲ：おおむね順調に進んでいる

#### 【主な取組みと評価】

##### ○研究の推進

- ・ 研究分野ごとに定めた研究推進項目を踏まえ、重点的に取り組む研究や分野横断的な研究を推進したことは評価できる。（No.3、別紙No.77～122）

#### 【研究推進項目各分野における主な取組み】

##### ○農業

- ・ 小麦、大豆、やまのいも類、メロン各1品種を育成し、新たに北海道優良品種に認定された。水稻「ゆめぴりか」の品質管理目標などによる新たな水田利用技術の高度化、小麦「きたほなみ」などの安定栽培法の開発のほか、ミニトマトの生産安定化やブルーベリーの幼木期生育促進技術開発、自給飼料を活用した乳牛飼養技術などに取り組み安定生産に寄与した。（No.77）

##### ○水産

- ・ マナマコ及びホッコクアカエビを対象としたマリンプロードバンドを活用したリアルタイム水産資源評価の成果から、迅速な水産資源評価及び情報発信に寄与した。（No.83）

##### ○森林

- ・ 防雪林造成・管理技術や法面における樹木の利用技術などの成果が得られ、森林の多目的機能の発揮に寄与した。（No.90）

##### ○産業技術

- ・ 低環境負荷型難燃性高分子系複合材料の開発で得られた成果をもとに企業と共同で新製品を開発するとともに、関連技術の特許を出願した。（No.98）

##### ○環境及び地質

- ・ エゾシカやヒグマの生息環境に関する研究成果などが得られ、本道の生物多様性の保全に寄与するとともに道の施策推進に寄与した。（No.106）

##### ○建築

- ・ 断熱材の長期性能維持や窓の断熱性をはじめとする諸性能の向上などの成果が得られ、地域性を考慮した省エネルギー技術の開発に寄与した。（No.115）

### ○研究の戦略的な展開

- ・ 中期計画に定める3つの重点領域に対応し、新たに選定した2課題と継続1課題の分野横断的な戦略研究を道総研内の複数の研究分野や企業等との連携を効果的に活用しながら取り組むとともに、実用化・事業化を目指す研究・技術開発を幅広い観点からの研究評価のもと、重点化を図り（31課題）、他の研究本部や大学等と連携しながら取り組んだことは評価できる。（No. 5、6）

### ○研究成果の利活用の促進

- ・ 各研究本部・試験研究機関において、外部の関係者や道民を対象とした研究成果発表会等を開催するなどして、研究成果や知見についての普及に積極的に取り組んだことは評価できる。（No. 15）

### ◇ B 項目の内訳

- ・ 公募型研究（No. 9）
- ・ 研究の評価（No. 13）
- ・ 課題検討方法の改善（No. 14）

## 2 総合的な技術支援と社会への貢献

評価 Ⅲ：おおむね順調に進んでいる

### 【主な取組みと評価】

#### ○技術相談、技術支援の実施

- ・ 各研究本部・試験研究機関及び法人本部の総合相談窓口において、技術相談を受け、関連する技術や研究成果などの情報を提供するとともに、一部の相談内容については技術指導や共同研究等への展開を図ったことは評価できる。(No. 20)
- ・ 各試験研究機関の分野に応じた技術指導を行うほか、各種委員会の委員就任、セミナー等への講師派遣、業界紙・専門誌への寄稿に対応するなど、外部からの技術的な支援要請に積極的に協力したことは評価できる。(No. 21)

#### ○依頼試験、設備等の提供

- ・ 企業等からの依頼により、各種測定機器や試験機器、インキュベーション施設等を提供（開放）し、企業等の技術開発、研究開発を支援したことは評価できる。(No. 27)
- ・ ホームページやメールマガジン等を活用して手続き方法や利用料金、機器の紹介を行うことにより、依頼試験や設備提供等の利用者の拡大を図ったことは評価できる。(No. 26、30)

自己評価において「A」と評価した20項目のうち、1項目(No.25)については、No.31の数値目標に対する実績を踏まえて評価を行うべきであることから「B」と評価した。

#### □依頼試験の実施 (No. 25) A→B

- ・ 企業等からの依頼内容を把握し、利用者の要望に沿った試験、分析、測定や、製品等の品質・性能の評価等を実施した。(依頼試験実施件数 2,062件)

#### □依頼試験、試験機器等の設備提供の実績値 (No. 31)

H22年度目標値 4,100件 H22年度実績値 3,019件

#### ◇B項目の内訳

- ・ 依頼試験の実施 (No. 25) A→B
- ・ 依頼試験、試験機器等の設備提供の実績値 (No. 31)
- ・ 利用者意見の把握 (No. 32)

### 3 連携の推進

評価 II : やや遅れている

#### 【主な取組みと評価】

##### ○外部機関等との連携

- ・ 北海道と日本ハムとの3者協定のほか、(財)北海道科学技術総合振興センター、北洋銀行、(独)寒地土木研究所及び中央大学のそれぞれと道総研全体に関わる連携協定のほか、各研究本部や各試験研究機関において連携協定計11件を締結し、効果的な事業の実施や職員の能力向上及び研究機能の強化に資する取組みを進め、また、国、市町村、大学、金融機関等の人材を連携コーディネーター(6名)として委嘱し、外部機関との連携基盤の構築や、研究・技術支援等の取組みを進めたことは評価できる。(No.42)

自己評価において「A」と評価した5項目のうち、1項目(No.43)については、今後対応されたい事項として、付帯意見を付した上で「A」と評価した。

##### □連携基盤の活用による事業の推進(No.43) A

- ・ 道総研全体に関わる連携協定に基づき、情報交換会・意見交換会の開催、現地技術相談会の共催、展示会等イベントへの相互協力等を行ったほか、各研究本部・試験研究機関での連携協定等に基づき、共同研究の実施、研究交流会・現地技術講習会の開催、人材交流等を行った。

##### 【付帯意見】

- ・ 連携基盤の活用については、農業関係など他にも連携として考えられる事業を積極的に評価事項として実績報告書に記載することとされたい。

##### ◇B項目の内訳

- ・ 外部機関等との交流(No.46)
- ・ 連携の推進の実績値(No.48)



## 4 広報機能の強化

評価	Ⅳ：順調に進んでいる
----	------------

### 【主な取組みと評価】

#### ○道民への広報活動

- ・ 年報の発行、配布やホームページ、メールマガジンを活用した研究成果の発表、普及等のほか、研究成果等を分かりやすく道民に伝える「道総研ランチタイムセミナー」等のイベントを実施するなど積極的な広報展開を図ったことは評価できる。(No. 49)

#### ○利用者への広報強化

- ・ 道と連携して道内各地で、市町村との意見交換会を実施するとともに、各研究本部及び法人本部において、研究成果発表会のほか、企業等の見学受け入れや、研究についての説明を行うなどしたことは評価できる。(No. 50)

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

第2の分野は、全9項目について評価を行った結果、A評価6項目（66.7%）、B評価3項目（33.3%）となっている。

A評価以上の項目が9割未満であり、全体としては、やや遅れていることからより一層の取組みが求められる。

### 1 組織運営・体制の改善

評価	Ⅱ：やや遅れている
----	-----------

#### 【主な取組みと評価】

##### ○組織運営の改善

- ・ 組織の運営や体制の改善、見直し等を進め、各研究本部の責任と裁量に基づくことを基本としながら、平成23年度の組織機構改正を行ったことは評価できる。（No. 52）

##### ○意思決定の迅速化

- ・ より効果的・効率的な組織運営を行うため、意思決定の仕組みについて検証し、下位の職や研究本部等への権限委譲などの見直しを行い、関係規程等を改正したことは評価できる。（No. 53）

#### ◇B項目の内訳

- ・ 組織体制の検証（No. 54）

## 2 業務の適切な見直し

評価 II : やや遅れている

### 【主な取組みと評価】

#### ○事務処理の改善

- ・ 事務の簡素、効率化などを定めた「事務改善に関するガイドライン」を策定するとともに、事務処理手順や業務内容に関する検証を行い、事務処理の効率化に向け事務決裁、収入・支出事務等の法人本部集約、自動車リース契約等の一括契約など事務処理の効率化に向けた見直しを行ったことは評価できる。(No. 55)

自己評価において「A」と評価した2項目のうち、1項目 (No. 56) については、実施したアンケート結果が十分に活用されていないため、「B」と評価した。

#### □道民意見の把握と業務運営の改善 (No. 56) A→B

- ・ 成果発表会や公開デー等の参加者にアンケート調査を実施し、得られた意見や要望等を踏まえ開催内容の充実を図った。  
また、関係団体等や市町村との連絡会議や意見交換会等を通じて意見、要望を収集し、業務の改善に活用した。

#### ◇B項目の内訳

- ・ 道民意見の把握と業務運営の改善 (No. 56) A→B

### 3 人事の改善

評価 II : やや遅れている

#### 【主な取組みと評価】

##### ○人材の採用

- ・ 研究、技術支援業務等を円滑に実施するため、職員採用計画を策定するとともに、研究職員の採用試験を実施し、15名の採用を決定したことは評価できる。(No. 57)

##### ○人材の育成

- ・ 階層別研修や、海外派遣研修等の専門研修を実施し、職員の資質や能力の向上を図ったことは評価できる。(No. 59)

自己評価において「A」と評価した3項目のうち、1項目 (No. 60) については、今後対応されたい事項として、付帯意見を付した上で「A」と評価した。

##### □評価制度の導入 (No.60) A

- ・ 職員の意欲と能力の向上を図るとともに、士気高揚を喚起し、組織全体を活性化することを目的に、人事評価制度や勤勉手当に係る勤務実績評価制度を導入したほか、職員の永年勤続表彰を行うとともに、研究業績については、理事長表彰のほか、知事表彰を導入し、基礎的、基盤的研究にも対象を広げて、表彰を行った。

##### 【付帯意見】

- ・ 人事評価制度の構築は難しいと理解するが、研究職員の評価制度について、適切な制度の早期導入に向けて検討すること。

##### ◇B項目の内訳

- ・ 外部機関等との人材交流 (No. 58)

### 第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

第3の分野は、全8項目について評価を行った結果、全ての項目がA評価となっており、全体としては、計画どおりに取組みが実施されたものと評価できる。

#### 1 財務の基本的事項

評価 IV：順調に進んでいる

##### 【主な取組みと評価】

##### ○財務内容の透明性の確保

- ・ 財務内容の透明性を確保するため、財務諸表をホームページで公表することとしたほか、財務内容を分かりやすく記載した「決算の概要」を作成し、財務諸表とあわせて公表することとしたことは評価できる。(No. 61)

#### 2 外部資金その他の自己収入の確保

評価 IV：順調に進んでいる

##### 【主な取組みと評価】

##### ○知的財産の有効活用

- ・ 特許権等の企業等における活用を図るため、北海道知的所有権センターに所属する特許流通アドバイザー等と連携するなどし、実施許諾等の促進に取り組んだことは評価できる。(No. 64)

### 3 経費の効率的な執行

評価	IV：順調に進んでいる
----	-------------

#### 【主な取組みと評価】

##### ○経費の効率的な執行

- ・ 毎月、予算差し引き一覧表を作成し、役員会において経費の執行状況及び運営状況等の分析を行ったこと、また、会計担当職員を対象とした会計研修等を実施し、経費の適切かつ効率的な執行に取り組んだことは評価できる。(No. 66)

### 4 資産の管理

評価	IV：順調に進んでいる
----	-------------

#### 【主な取組みと評価】

##### ○資産の管理

- ・ 財務会計システムの活用により、預金口座出納簿を作成の上、適正な資金管理を行うとともに、資産の稼働状況及び共同利用の状況を調査し、遊休設備・機器の売却等の処分に取り組んだことは評価できる。(No. 68)

## 第4 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

第4の分野は、全8項目について評価を行った結果、全ての項目がA評価となっており、全体としては、計画どおりに取組みが実施されたものと評価できる。

### 1 施設及び設備の整備及び活用

評価 IV：順調に進んでいる

#### 【主な取組みと評価】

##### ○施設等の維持管理

- ・ 保全業務要領及び施設の長期保全計画を策定するとともに、道に準拠したファシリティマネジメント（FM）の取組みを進めるため、「保全マニュアル」を策定し、施設及び設備の適切な維持管理に取り組んだことは評価できる。（No. 69）

### 2 法令の遵守

評価 IV：順調に進んでいる

#### 【主な取組みと評価】

##### ○法令の遵守

- ・ 法令遵守及び不正行為防止のため、研究本部に対する通知等により周知・徹底に取り組んだほか、研修において法令遵守や倫理に関するカリキュラムを実施したことは評価できる。（No. 71）

### 3 安全管理

評価 IV：順調に進んでいる

#### 【主な取組みと評価】

##### ○安全管理

- ・ 職員の労働災害及び健康障害を防止し、安全及び健康を確保するため、労働安全衛生管理体制を整備し、安全衛生委員会の開催や研修の実施などの取組みを行ったことは評価できる。（No. 72）

#### 4 情報セキュリティ管理

評価 IV：順調に進んでいる

##### 【主な取組みと評価】

###### ○情報セキュリティ管理

- ・ 「道総研セキュリティポリシー」を策定するとともに、その要点をまとめたハンドブックを作成し、ネットワーク利用者全員に周知したことは評価できる。(No. 73)

#### 5 情報の共有化の推進

評価 IV：順調に進んでいる

##### 【主な取組みと評価】

###### ○情報の共有化の推進

- ・ 全体の共有フォルダ及びメーリングリスト等を活用して研究情報等の共有、活性化を図るとともに、グループウェアの機能を利用し、外部資金等の情報の提供に取り組んだことは評価できる。(No. 74)

#### 6 情報公開

評価 IV：順調に進んでいる

##### 【主な取組みと評価】

###### ○情報公開

- ・ ホームページにおいて、法人本部、各研究本部（試験研究機関）の研究活動等について、積極的かつ分かりやすく情報発信することに取り組んだことは評価できる。(No. 75)



## 7 環境に配慮した業務運営

評価 IV：順調に進んでいる

### 【主な取組みと評価】

#### ○環境に配慮した業務運営

- ・ 環境に配慮した業務運営の推進などを定めた「事務改善に関するガイドライン」を策定し、職員に周知し、グリーン購入など、これに基づく取組みを行ったことは評価できる。(No. 76)

3 項目別評価（総括表）

評価項目（年度計画）	法人自己評価								評価委員会評価								
	計画達成の状況								評価	評価における特記事項							
	S	0	A	113	B	9	C	0		S	0	A	111	B	11	C	0
1 第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	S	0	A	90	B	7	C	0	III	S	0	A	89	B	8	C	0
1 研究の戦略的な展開と成果の普及	S	0	A	62	B	3	C	0	III	S	0	A	62	B	3	C	0
	<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>研究分野毎に定めた研究推進項目を踏まえ重点的に取り組む研究や分野横断的な研究などを推進した。(No. 3、別紙No. 77～122) A</li> <li>中期計画に定める重点領域に対応し、新たな2課題と継続1課題の分野横断的な戦略研究に取り組んだ。(No. 5) A</li> <li>道の政策課題などに対応した事業化・実用化につながる研究・技術開発などを幅広い観点からの研究評価（外部評価）のもと、重点化を図り31課題を実施した。(No. 6) A</li> <li>外部の関係者や道民を対象とした研究成果発表会の開催や外部機関の展示会等に積極的に参加し、道総研の研究成果や知見を発表した。(No. 15) A</li> </ul>								III	<input type="checkbox"/> 概ね順調に進んでいる。  ◇B項目の内訳 ・公募型研究 (No. 9) ・研究の評価 (No. 13) ・課題検討方法の改善 (No. 14)							
2 2 総合的な技術支援と社会への貢献	S	0	A	20	B	2	C	0	III	S	0	A	19	B	3	C	0
	<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>各研究本部・試験研究機関においての外部からの技術的な相談対応に加え法人本部に総合相談窓口を設置し、各研究本部と連携しながら、計9,848件の道民や企業等からの問い合わせ・相談に対応した。(No. 20) A</li> <li>企業等からの要望に応じ、委員・講師・アドバイザー等として必要な助言を行うとともに、刊行物への寄稿等、計2,697件の技術指導を実施した。(No. 21) A</li> <li>企業等からの依頼によりインキュベーション施設を貸与（762日、4社）した。(No. 27) A</li> <li>依頼試験や設備提供等の利用者の拡大に向けて、ホームページやメールマガジン等で手続きの方法や利用料金、機器等の紹介を行ったほか、複数の項目にわたる依頼の場合の一括請求など、利用者の利便性の向上を図った。(No. 26、30) A</li> </ul>								III	<input type="checkbox"/> 概ね順調に進んでいる。  [ 自己評価において「A」と評価した20項目のうち、1項目 (No. 25) については、No. 31の数値目標に対する実績を踏まえて評価を行うべきであることから、「B」と評価した。 ]  ◇B項目の内訳 ・依頼試験の実施 (No. 25) A→B ・依頼試験、試験機器等の設備提供の実績値 (No. 31) ・利用者意見の把握 (No. 32)							

評価項目(年度計画)	法人自己評価				評価委員会評価						
	計画達成の状況				評価	評価における特記事項					
3	3 連携の推進	S	0	A	5	B	2	C	0	II	<p>S 0 A 5 B 2 C 0</p> <p>○ やや遅れている。</p> <p>〔 自己評価において「A」と評価した5項目のうち、1項目 (No. 43) については、今後対応されたい事項として、付帯意見を付した上で「A」と評価した。〕</p> <p>□ 連携基盤の活用による事業の推進 (No. 43) 【付帯意見】 連携基盤の活用については、農業関係など他にも連携として考えられる事業を積極的に評価事項として実績報告書に記載することとされたい。</p> <p>◇ B項目の内訳 ・ 外部機関等との交流 (No. 46) ・ 連携の推進の実績値 (No. 48)</p>
4	4 広報機能の強化	S	0	A	3	B	0	C	0	IV	<p>S 0 A 3 B 0 C 0</p> <p>○ 順調に進んでいる。</p>

評価項目(年度計画)	法人自己評価								評価	評価委員会評価								
	計画達成の状況									評価における特記事項								
5 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	S	0	A	7	B	2	C	0	II	S	0	A	6	B	3	C	0	
1 組織運営・体制の改善	S	0	A	2	B	1	C	0	II	<input type="checkbox"/> やや遅れている。  <input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施していない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>効果的、効率的な組織運営を行う観点から、重点領域の推進に資する研究課題に対して予算や人員等の資源の重点的な配分を行い、各研究本部の責任と裁量に基づくことを基本としながら、平成23年度の組織機構改正を行った。(No. 52) A</li> <li>意思決定の仕組みについて検証し、下位の職や研究本部等への権限委譲などの見直しを行い、関係規程等を改正(平成22年10月1日施行)した。(No. 53) A</li> </ul>	S	0	A	2	B	1	C	0
											<input type="checkbox"/> やや遅れている。  ◇B項目の内訳 ・組織体制の検証 (No. 54)							
6 2 業務の適切な見直し	S	0	A	2	B	0	C	0	II	<input type="checkbox"/> やや遅れている。  <ul style="list-style-type: none"> <li>事務処理の改善や管理経費の節減を図るため、「事務改善に関するガイドライン」を策定(平成22年12月)するとともに、事務処理手順や業務内容を検証し、事務決裁、収入・支出事務等の法人本部集約、自動車リース契約等の一括契約などの見直しを行った。(No. 55) A</li> </ul>	S	0	A	1	B	1	C	0
											<input type="checkbox"/> やや遅れている。  <ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価において「A」と評価した2項目のうち、1項目(No. 56)については、実施したアンケート結果が十分に活用されていないため、「B」と評価した。</li> </ul> ◇B項目の内訳 ・道民意見の把握と業務運営の改善 (No. 56) A→B							
7 3 人事の改善	S	0	A	3	B	1	C	0	II	<input type="checkbox"/> やや遅れている。  <ul style="list-style-type: none"> <li>研究、技術支援業務等を円滑に実施するため、職員採用計画を策定するとともに、研究職員の採用試験を実施し、15名の採用を決定した。(平成23年1月1日付け6名、4月1日付け9名)(No. 57) A</li> <li>必要な資質、能力の向上を図るため、階層別研修や研究職員等の専門研修を実施した。(No. 59) A</li> <li>人事評価制度や勤労手当に係る勤務実績評価制度を導入したほか、永年勤続表彰や研究業績にかかる職員表彰を実施した。(No. 60) A</li> </ul>	S	0	A	3	B	1	C	0
											<input type="checkbox"/> やや遅れている。  <input type="checkbox"/> 評価制度の導入 (No. 60) 【付帯意見】 人事評価制度の構築は難しいと理解するが、研究職員の評価制度について適切な制度の早期導入に向けて検討すること。  ◇B項目の内訳 ・外部機関等との人材交流 (No. 58)							

評価項目(年度計画)	法人自己評価							評価	評価委員会評価								
	計画達成の状況								評価における特記事項								
8 第3 財務内容の改善に関する目標 を達成するための措置	S	0	A	8	B	0	C	0	IV	S	0	A	8	B	0	C	0
1 財務の基本的事項	S	0	A	2	B	0	C	0	IV	○ 順調に進んでいる。							
<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 財務内容の透明性を確保するため、いつでも外部の方々が閲覧することができるよう、財務諸表をホームページで公表することとしたほか、財務内容を分かりやすく記載した「決算の概要」を作成し、財務諸表とあわせて公表することとした。(No. 61)A																	
9 2 外部資金その他の自己収入の確保	S	0	A	3	B	0	C	0	IV	S	0	A	3	B	0	C	0
<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 特許等を出願・保有し、知的財産を適切に管理（特許権等保有82件、出願中特許等117件、登録品種96件（出願中13件））するとともに、保有特許権等の活用を図るため、北海道知的所有権センターの特許流通アドバイザー等と連携した実施許諾の促進（実施許諾締結81件）や道及び農業団体と連携した出願公表された品種の周知など新品種利用許諾の促進を図った。(No. 64)A							IV	○ 順調に進んでいる。									
10 3 経費の効率的な執行	S	0	A	2	B	0	C	0	IV	S	0	A	2	B	0	C	0
<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 毎月、財務会計システムを活用し、予算の差引一覧表を作成し、役員会において経費の執行状況の確認及び運営状況の分析を行った。また、会計担当職員を対象に会計研修等を実施した。(No. 66)A							IV	○ 順調に進んでいる。									
11 4 資産の管理	S	0	A	1	B	0	C	0	IV	S	0	A	1	B	0	C	0
<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 財務会計システムの活用により、預金口座出納簿を作成の上、適正な資金管理を行うとともに資金の稼働状況及び共同利用の状況を調査し、遊休設備・機器等の売却等の処分を実施した。(No. 68)A							IV	○ 順調に進んでいる。									
12 第4 その他業務運営に関する重要 目標を達成するためにとるべき 措置	S	0	A	8	B	0	C	0	IV	S	0	A	8	B	0	C	0
1 施設及び設備の整備及び活用	S	0	A	2	B	0	C	0	IV	○ 順調に進んでいる。							
<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 保全業務要領及び施設の長期保全計画を策定するとともに、道に準拠したファシリティマネジメント（FM）の取組みを進めるため、保全マニュアルを策定した。(No. 69)A																	

評価項目(年度計画)	法人自己評価				評価委員会評価													
	計画達成の状況				評価	評価における特記事項												
13 2 法令の遵守	S	0	A	1	B	0	C	0	IV	S	0	A	1	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 法令遵守及び不正行為防止のため、研究本部に対する通知等により周知・徹底に取り組むとともに、法人本部、各研究本部、各試験研究機関において、法令遵守、研究倫理保全、不正防止、交通安全をテーマとした職場研修等を実施した。(No. 71) A																		
14 3 安全管理	S	0	A	1	B	0	C	0	IV	S	0	A	1	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 労働安全衛生法の適用を受ける事業場に安全衛生委員会を設置するなど管理体制の整備を行い、各事業場において、委員会の開催や研修の実施など職員の安全確保や健康増進に向けての取り組みを行った。(No. 72) A																		
15 4 情報セキュリティ管理	S	0	A	1	B	0	C	0	IV	S	0	A	1	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 「道総研セキュリティポリシー」を策定し、全職員に通知するとともに、留意事項を記載したハンドブックを配布した。(No. 73) A																		
16 5 情報の共有化の推進	S	0	A	1	B	0	C	0	IV	S	0	A	1	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 全体の共有フォルダ及びメーリングリスト等を活用して研究情報等の共有、活用を図った。また、グループウェアの機能を利用し、外部資金等の情報を提供した。(No. 74) A																		
17 6 情報公開	S	0	A	1	B	0	C	0	IV	S	0	A	1	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ ホームページにおいて、法人本部、各研究本部（試験研究機関）の研究活動等について周知した。(No. 75) A																		
18 7 環境に配慮した業務運営	S	0	A	1	B	0	C	0	IV	S	0	A	1	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 環境に配慮した業務運営の推進などを定めた「事務改善に関するガイドライン」を策定（平成22年12月）し、職員に周知の上、これに基づく取り組みを行った。(No. 76) A																		

評価項目(年度計画)		法人自己評価						評価委員会評価											
		計画達成の状況						評価	評価における特記事項										
研究推進項目		S	0	A	46	B	0	C	0	IV	S	0	A	46	B	0	C	0	
1 農業に関する研究推進項目																			
19	(1) 豊かな食生活を支える農業の推進	S	0	A	3	B	0	C	0	IV	S	0	A	3	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
	<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>小麦、大豆、やまのいも類、メロン各1品種を育成し、新たに北海道優良品種に認定された。水稻「ゆめびりか」の品質管理目標などによる新たな水田利用技術の高度化、小麦「きたほなみ」などの安定栽培法の開発のほか、ミニトマトの生産安定化やブルーベリーの幼木期生育促進技術開発、自給飼料を活用した乳牛飼養技術などに取り組み安定生産に寄与した。(No. 77) A</li> <li>道内主要農作物のDNAマーカー利用による品種判別技術の開発や大豆「ユキホマレR」、小豆「きたあすか」等の基本系統の選定など遺伝資源の管理と有効活用に寄与した。(No. 79) A</li> </ul>																		
20	(2) 環境と調和した持続的農業の推進	S	0	A	2	B	0	C	0	IV	S	0	A	2	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
	<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>主要作物における気候変動の影響予測についての成果を取りまとめた。また、「環境と調和した草地の施肥管理マニュアル」を平成23年3月に刊行した。(No. 81) A</li> </ul>																		
21	(3) 地域の特色を生かした農業・農村の振興	S	0	A	1	B	0	C	0	IV	S	0	A	1	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
	<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>減化学肥料などクリーン農業高度化技術の経済効果や、農業生産費及び農家の収益構造の把握手法の開発により高収益・低コスト経営の確立に寄与した。(No. 82) A</li> </ul>																		
2 水産に関する研究推進項目																			
22	(1) 地域を支える漁業の振興	S	0	A	3	B	0	C	0	IV	S	0	A	3	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
	<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>マナマコ及びホッコクアカエビを対象としたマリンプロードバンドを活用したリアルタイム水産資源評価の成果から、迅速な水産資源評価及び情報発信に寄与した。(No. 83) A</li> <li>早期採苗手法を利用したチヂミコンブ促成養殖技術が、宗谷漁業協同組合が実施する養殖試験に活用された。(No. 84) A</li> <li>北見管内で野生サケに関するデータ収集が行われ、秋サケMSC漁業認証(水産エコラベル)審査用のデータとして活用された。(No. 85) A</li> </ul>																		
23	(2) 水産物の安全性確保と高度利用の推進	S	0	A	2	B	0	C	0	IV	S	0	A	2	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
	<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>脱血処理装置を開発するとともに、脱血処理による製品の品質向上を明らかにし、道産水産物のブランド化支援に寄与した。(No. 87) A</li> </ul>																		

評価項目(年度計画)	法人自己評価								評価委員会評価										
	計画達成の状況								評価	評価における特記事項									
24	(3) 自然との共生を目指した水産業の振興	S	0	A	2	B	0	C	0	IV	S	0	A	2	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
		<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ アサリ稚貝育成場の評価手法の妥当性を検証するとともに、アサリの成長因子をほぼ特定し、アサリの新規漁場造成に寄与した。(No. 89) A																	
3 森林に関する研究推進項目																			
25	(1) 地域の特性に応じた森林づくりとみどり環境の充実	S	0	A	3	B	0	C	0	IV	S	0	A	3	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
		<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 防雪林造成・管理技術や法面における樹木の利用技術などの成果が得られ森林の多目的機能の発揮に寄与した。(No. 90) A																	
26	(2) 林業の健全な発展と森林資源の循環利用の推進	S	0	A	2	B	0	C	0	IV	S	0	A	2	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
		<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ アオダモ植栽技術の改善やカラマツ資源の循環利用などの成果が得られ、林業の持続的な発展に寄与した。(No. 93) A ・ 農産廃棄物利用ペレットの製造技術について、南幌町、訓子府町などへ技術支援を行い、成果が活用された。(No. 94) A																	
27	(3) 技術力の向上による木材関連産業の振興	S	0	A	3	B	0	C	0	IV	S	0	A	3	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
		<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 木材・アルミ複合サッシの遮炎性能付与技術がサッシメーカーの性能評価試験に活用された。(No. 95) A ・ 道産カラマツを用いた2×4工法用製材に関するJAS認定を取得し、わん曲集成材を用いた製品の販売などに活用された。(No. 97) A																	
4 産業技術に関する研究推進項目																			
28	(1) 道内産業の振興を図るための産業技術の高度化	S	0	A	2	B	0	C	0	IV	S	0	A	2	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
		<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 低環境負荷型難燃性高分子系複合材料の開発で得られた成果をもとに企業と共同で新製品を開発するとともに、関連技術の特許を出願した。(No. 98) A ・ コンブ作業省力化スーツの試作及び生態情報計測試験による負荷データ測定など、地域資源を活用した産業振興のための研究に関する成果が得られ、地域毎に異なる資源や特性の有効活用に寄与した。(No. 99) A																	



評価項目(年度計画)	法人自己評価				評価委員会評価														
	計画達成の状況				評価	評価における特記事項													
29	(2) 成長が期待される新産業・新事業の創出	S	0	A	2	B	0	C	0	IV	S	0	A	2	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
		<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ ヒト天然歯のバイオリサイクル医療に関して、ヒト抜去歯を冷却高速粉碎する装置を改良・製品化し、臨床医療への普及を進めた。(No.100) A ・ 防腐剤処理木材の計測システムの作成など、環境と調和した技術開発の成果が得られ、持続的な循環型社会の構築に寄与した。(No.101) A																	
30	(3) 一層の競争力を持った道産食品を生み出す力強い食品工業の構築	S	0	A	3	B	0	C	0	IV	S	0	A	3	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
		<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ えん下機能の低下等に対応した高齢者向け食材の加工技術を確立し、道内企業への技術移転を進めるなど、製品づくりに寄与した。(No.103) A																	
5 環境及び地質に関する研究推進項目																			
31	(1) 循環と共生を基調とする環境負荷の少ない持続可能な社会の実現	S	0	A	4	B	0	C	0	IV	S	0	A	4	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
		<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ エゾシカやヒグマの生息環境に関する研究成果などが得られ、本道の生物多様性の保全に寄与するとともに、道の施策推進に寄与した。(No.106) A ・ 大気・水・化学物質など有害物質に係るモニタリング調査や、騒音や振動などに係る調査及び地域環境の調査を行い、地域環境の確保に向けた取組みに寄与した。(No.107) A																	
32	(2) 地質災害・沿岸災害の防止と被害の軽減	S	0	A	2	B	0	C	0	IV	S	0	A	2	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
		<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 自然災害リスク評価手法の開発や活断層調査、土砂災害軽減のための評価手法の開発などにより、地質災害の防止と被害軽減に向けた取組みに寄与した。地すべり分布に関するGIS情報をホームページで公開し、利用が始まった。(No.109) A ・ サハリン石油開発における災害・流出油影響評価などに関する研究の成果として、漂着油を追跡する漂流ブイが製品化された。(No.110) A																	
33	(3) 資源の適正な開発・利用と環境保全	S	0	A	3	B	0	C	0	IV	S	0	A	3	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
		<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 各地域における温泉資源の開発・地下水資源に関する研究から成果が得られ、適正な開発・利用保全に向けた取組みに寄与した。(No.112) A																	

評価項目(年度計画)	法人自己評価				評価委員会評価													
	計画達成の状況				評価	評価における特記事項												
34 (4) 環境及び地質に関する情報基盤の整備と高度利用	S	0	A	1	B	0	C	0	IV	S	0	A	1	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ ボーリングデータベースの構築、デジタル地質図の作成、防災データマップの開発などから成果が得られ、情報基盤整備に向けた取組みに寄与するとともに、地質学的観光資源情報の発信試験を実施し、結果は登別観光協会において活用された。(No.114) A																		
6 建築に関する研究推進項目																		
35 (1) 建築、まちづくり分野における環境負荷の低減	S	0	A	3	B	0	C	0	IV	S	0	A	3	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 断熱材の長期性能維持や窓の断熱性をはじめとする諸性能の向上などの成果が得られ、地域性を考慮した省エネルギー技術の開発に寄与した。(No.115) A ・ 地盤置換工法の蓄熱効果と地中熱利用に関して、水平採熱管によるヒートポンプ暖房の可能性を明らかにし、企業等への技術移転に取り組んだ。(No.116) A																		
36 (2) 快適で安全・安心な住環境の創出	S	0	A	3	B	0	C	0	IV	S	0	A	3	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 高層公共賃貸住宅の雪対策手法について、旭川市の公営住宅の実施設計に活用された。(No.119) A ・ 想定地震決定手法、地震被害想定手法・ツールの開発、都市災害データベース構築などの成果は、道の想定地震の見直し及び地域防災計画の見直しに活用された。(No.120) A																		
37 (3) 自立型経済を支援する住宅・建築産業の活性化	S	0	A	2	B	0	C	0	IV	S	0	A	2	B	0	C	0	○ 順調に進んでいる。
<input type="checkbox"/> 年度計画を十分に実施している。 ・ 塩ビサイディングによる超長期住宅外装システムで開発した付加断熱工法は、民間企業に技術移転された。(No.121) A																		